

もうひとつの働き方を選ぶための情報誌



2021.11
NOVEMBER
No.85

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合 <http://www.tokyo-workers.jp>



私の仕事術

山口県の田舎に生まれ、
山形県の小さな離島住まい

日本海にぽっかり浮かぶ山形県の小さな離島・飛島に暮らしています。飛島に移住したのは、大学を卒業した2012年なので約10年が経ちました。山口県の田舎に生まれ育ち、大学進学で大阪へ移りデザインを学び、いざ就職活動というときに東日本大震災が起きました。被災地へボランティアを行った際、地域の底力を目の当たりにしたことから土地に根ざしたデザイナーになりたいと考え、縁もゆかりもない飛島へ飛び込むことを決意したのです。

移住後の壁・壁・壁

意気揚々と島に移住した若造は、数々の壁にぶち当たります。まずは言葉、つまり方言です。現代日本において言葉が聞き取れないことで意思疎通ができない状況があるとは思ってもみませんでした。数ヶ月が経過してリスニングができるようになったとき、次の壁が現れます。雇用の受け皿がないという問題です。基幹産業である漁業は磯見漁を中心とした零細なもので雇用を確保できる状態ではありません。そこで、偶然同じ時期に移住了したU・Iターンの若者たちと「合同会社とびしま」を設立しました。当社は、季節限定のカフェを開店したり、草刈りや除雪作業を請け負ったり、廃業した旅館を購入して開業したりと小さな仕事をかき



飛島・荒崎海岸の眺望

地域を
デザインで活性化する

合同会社とびしま共同代表
松本友哉



SHIMABITO COMPANY
TOBISHIMA



●まつもと ともや ●

2012年山形県飛島に移住し、UIターンの若者と「合同会社とびしま」を設立。社内では、企画とデザインを担当。いつもどこでも、だれでも、しまびとにになる飛島のオンラインコミュニティ「Cloud Island」構想を推進している。

写真は、春の例大祭の神事で天狗舞を任せられたとき。



合同会社とびしまのメンバー

集めて少しづつ雇用を生み出してきました。どうにか食べていけるようになったところで、さらに大きな壁がそびえ立っていました。飛島は、人口約180人、高齢化率約80%（2020年10月現在）という極端な過疎地であり、コミュニティの消滅は目前に迫っています。ひとつの会社を維持するだけでは島の未来はつくれないことを痛感して、近年新しいコミュニティづくりに取り組み始めています。

新しいコミュニティのかたちを模索中

キーワードは、やはり「関係人口」でしょう。その上で、地域に合わせたテーマ別の関係人口を創出していくことが大切です。第一歩として長年取り組んできた海ごみ問題に対する活動を足掛かりに、研究者やエンジニアが集うコミュニティをつくりました。現在、海岸の漂着ごみを回収するロボットを開発しています。関わったことのない分野の方たちとの会話は、異国の言葉のような専門用語が飛び交うので、初めて島に来たときを思い出します。「また、ここからか」とため息をつきながらも胸は高鳴っています。きっと地域の底力は、目の前に広がるフィールドから自ら問いを立てて解決していくデザインの繰り返しによって培われるものなのです。この島には、まだまだデザインで楽しむ余地がありそうです。

infomation

YouTube <https://www.youtube.com/c/Tobishimaland>
Instagram https://www.instagram.com/tobishima_japan/

共にはたらく事業を応援する 「東京都認証ソーシャルファーム」がスタート! 新規事業で認証事業所を目指す

東京都では、働き辛さを抱えた人々を積極的に雇用する事業所を「ソーシャルファーム」として認証し、支援をしています。2020年10月に応募事業所を募り、3認証事業所と25予備認証事業所(今後半年以内に認証基準を満たす事業計画を認証)を選定し2021年4月にスタートしました。既存の事業所とは別に事業所を新設し、就労困難者と認められる人を新たに雇用し、認証ソーシャルファームを目指す「予備認証事業所」に挑戦した3事業所の現状を伝えます。

障がいなど様々な理由で就労に困難を抱える人と共に働く社会的企業「ソーシャルファーム」は、1970年代にイタリアで誕生しました。現在では、ドイツ、イギリス、フランスなどに広がり、ヨーロッパ全体で約10,000社、韓国でも約2,000社あります。

NPO 法人わくわくかん

コミュニティカフェとリユースショップ

「共に働き共に生きる街づくりのための人と人との出会いの場」をミッションに、20年以上にわたり北区において精神障がい者の支援(自立訓練事業・グループホームなど)を行っています。これまでの障害福祉サービスの枠を超えて、精神障がい者のみならず、就労に困難を抱える様々な人々と、共に働く社会的事業所を新たに作るという「わくわくかん構想」を推進するために「ソーシャルファーム事業」に応募しました。事業内容はコミュニティカフェとリユースショップを中心としたリサイクルセンターの運営です。すでに愛知県津島市でフランチャイズ展開している「しげんカフェ」事業やNPO法人共同

連が名古屋市大曾根住宅で展開している「ソーネおおぞね」事業をまちづくりのモデル事業としながら構想しています。

場所は北区浮間4丁目JR高架下テナント。マンションの増加と共に子育て世代も増えているエリアです。高齢者や子育て世代の交流を中心にしたカフェづくりや地域の人、団体の参加型拠点運営などを考えています。メンバーは法人から5人と新たに3人雇用して進める予定です。また、他で働いているが継続できない人の受け皿になる可能性もあります。計画より遅れて12月事業開始になります。東京都は初めての事業として応援しています。スタートまでの支援として、事業立ち上げにかかる費用の2/3を都が拠出します(1/3は法人)。都の支援は5年間で、支援額は対象となる支出金額で変動しますが、5年後の自立を目指す計画です。



機関紙「りぼん便り」



「わくわくかん新規事業プロジェクトチーム」の若畠省二さん(左)
藤井晴太郎さん(右)

取材：和田安希代・金子かほる(東京ワーカーズ・コレクティブ理事)

有限会社まるみ

印刷物のデザイン・作成と情報処理サービスの2事業所

東京都ソーシャルファーム条例は事業所ごとに認証するので、同じ法人が複数の事業所で認証されることが可能。有限会社まるみ(以下「まるみ」)の、名刺やチラシなど印刷物のデザイン・作成の部署は、ソーシャルファーム認証事業所となっています。さらに、別の場所にホームページなどの情報処理サービスを行う「まるみラボ」の設置準備をすすめ、予備認証事業所として認証され、7月には認証事業所となりました。予備認証から事業所にもなった第1号です。条件である就労困難者と認められる3人の雇用は、立川市の若者サポートステーションと連携し、人材を確保しました。

「まるみ」が働きにくさを抱える人たちと働く場となつたのは、社長の三鶴岐子さんが就労移行支援事業を経営する友人から実習の受け入れを依頼されたことから。受け入れを続ける中で、実習からアルバイトとして働く人も出てきました。すると、以前から社員である女性が「実は、統合失調症なんです」とカミングアウト。互いのことをわかって働いたほうがいいと思ったからだったそうで、職場にケアをしあう雰囲気が生まれました。現在、12人の社員の7割が働きにくさを抱えていて、できることが

限られていたり、毎日出社できない人もいます。三鶴さんは受託した仕事の進行管理や営業も行いながら、社員それぞれの感情面のケアも行っています。「たいへんな人に目が行きがちだけど、静かな人へのケアが足りないこともあるんです」と、全員に日報を書いてもらい、全部に目を通しています。



三鶴岐子さん

ソーシャルファーム事業認証のメリットは、既存事業所はコンサルタント(中小企業診断士)が1年間、事業を見に来てアドバイスをもらえることや新規雇用者の人件費補助。新規開設事業所は設立時の備品購入、家賃、人件費などの補助です。しかし、補助金が入金されるのは数か月後であったり、業務日報を東京都書式に記録するなどの業務など、課題も見えてきました。

今のところ、所在する杉並区との連携はありませんが、地域に貢献したいと、「まるみラボ」の新入社員が地域紹介サイトを作成中です。

取材：藤木千草(一社ワーカーズ・コレクティブぶらぼの工房)

企業組合労協センター事業団小豆沢事業所

ハウスクリーニング事業

小豆沢(あずさわ)事業所の主な業務は板橋区の小豆沢病院の清掃受託業務で、35年間続けています。現在のメンバーは14人、年代は20~70代で、約6割の人が障がい者、生活困窮者、生活保護受給者など、就労に困難を抱えている人たちです。

病院清掃は実習を終ると、複数ある清掃作業のコースのどれかを単独で行わなければならないことが多いです。小豆沢事業所での就労を希望しても、そのような働き方が難しい人や病院という場所が向かない人、清掃という仕事に合わなくて辞めていく人もいます。そのような



山田隆さん(右)
長沼正樹さん(左)

子ども食堂への寄付



人々の働く場をつくり、共に働く事業をずっと続けていくと、ハウスクリーニング事業を柱にソーシャルファーム予備認証事業所の申請をしました。

スキルアップ研修や伴走する人件費などの補助を受け、清掃事業を幅広く行う計画です。また地域の必要に応じた清掃講座などを実施し、まちづくりにも応えていきます。現在、若者サポートステーションやいたばし生活仕事サポートセンターなどからの紹介で、就労希望者を受け入れています。

事業所では、様々な違いを認め合う民主的運営を大事にしています。全員参加会議で、辞めたいというメンバーの働く環境の改善や、小豆沢事業所が受けた報奨金を地域の「こども食堂」に寄付するなどを話し合ったとのこと。民主的でフラットな運営に参加と決定の実感をつくりだしています。

ソーシャルファーム事業には、事業体としての社会的な評価の確立と自治体の優先調達などで清掃業務を拡大できることを期待してます。

取材：和田安希代(東京ワーカーズ・コレクティブ理事長)

Zoom でつながる 東日本大震災被災地との交流

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合は、東日本大震災の翌年、2012年から「現場に立って考えよう」を合い言葉に、被災地訪問を毎年おこなってきました。10年目となる今年は、昨年に引き続きコロナ禍で訪問が難しいため、オンラインで下記のように5回開催します。

第1回 11月27日(土) 10時半～12時半

テーマ：生産者との連携

高橋英雄さん：宮城県東松島市（元石巻市）・高橋徳治商店
社長・生活クラブ生産者

- 高橋徳治商店の製品をつかったレシピ／野菜工場でつくっているものの利用方法／規格外品利用の可能性などについて

第2回 12月4日(土) 15時～17時

テーマ：放射能汚染と原発ゼロ運動、食の取り組み

大河原伸さん：福島県三春町・「野菜とパンの店えすぱり」・
有機農業と反原発運動

有馬克子さん：福島県須賀川市・「銀河のほとり」（心と体と
地球のための穀物菜食レストラン）

- 福島の現状や福島第1原発での課題を共有する。原発をゼロにする取組みや有機農業、身体に優しいメニュー、レストラン事業の課題、連携できることについて意見交換する。

第3回 2022年1月15日(土) 16時～18時

テーマ：子育て応援・子どもの居場所づくり

田中雅子さん：宮城県石巻市・認定NPO法人こどもむげん
感ぱにー・子どもの遊び場づくり

- 子どもの居場所や公園づくりについて実践をお聞きし、コロナ禍での課題、活動の維持運営について意見交換する。

第4回 2022年3月5日(土) 10時～12時

テーマ：地域での事業連携をすすめる

八木純子さん：宮城県女川町・一般社団法人コミュニティス
ペースうみねこ

木村直隆さん：宮城県石巻市・一般社団法人石巻グリーフサ
ポート・就労支援事業所B型としてカフェ「パーラー山とたんぽ」経営

- 八木さんが木村さんの事業所に鍋敷きの木片磨きを依頼した経緯などをお聞きし、製品開発と販売、障がい者の働く場づくりなどの地域での連携について意見交換する。

第5回 調整中

テーマ：地域活性化の取り組み

阿部憲子さん：宮城県南三陸町・ホテル観洋女将・毎回の
宿泊先・語り部活動

- 震災後、人口減少に歯止めをかけることや人材育成に尽力されたこと、またコロナ禍における営業活動や同業種連携についてお聞きする。東村山地域協議会の活動を紹介し、地域活性化について意見交換する。

*会場（生活クラブ館・経堂）での参加も可。詳細はHPにてご確認ください。

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合支援基金助成

第31回支援基金助成団体決定!!



- ワーカーズ・コレクティブ 草の実
事業継続のためのパソコン購入費用

- ワーカーズ・コレクティブ ベストファイブ
顧客・新規利用者への「お仕立会」DM作成送付費用

- (企)ワーカーズ・コレクティブ グレイン
ニーダー買換え購入資金

- (一社)ワーカーズ・コレクティブ ぷろぼの工房
「ワーカーズ・コレクティブ研究会」開催費用

*課題調査の結果を踏まえ、現状の課題と成果を整理しコロナ禍における社会でのワーカーズ・コレクティブで働くことについて考える

- (N)ワーカーズ・コレクティブ ちろりん村
パンフレット・チラシ作成費用と独自事業開催費用

ワーカーズ支援のために、賛助会員に登録くださいますようお願い致します。寄付金も歓迎です。

フォーラム

障害者総合支援法の支援制度の可能性

日時:2021年11月13日(土)14時～16時30分

会場:府中市市民活動センタープラツツ 第1会議室
(京王線府中駅隣接 府中駅南口 ル・シーニュ6F)

2013年4月に施行された「障害者総合支援法」にある支援制度を利用して事業をおこなっている団体からの現状と課題の報告。地域で暮らす場所としてのかかわりや居場所としてのニーズ、そして一般就労など次の働く場への移行の可能性や必要性を探ります。

報告

●就労継続支援B型

NPO法人VIVID(リユースショップ他) 遠藤伸さん

地域に開かれた事業所／制度に収まらない支援

NPO法人あしたや共働企画(自然食品店他) 岩間有希さん
対等な関係性を目指して

NPO法人こすもす(パン製造他) 佐久間寛子さん
ワーカーズ・コレクティブとしての働き方

●地域活動支援センター

NPO法人川崎市民石けんプラント(リサイクル石けん製造)

清水真理子さん

「地域生活支援事業」としてのやりがいのある場づくり

参加費:500円

主催:ともっと事業体

共催:東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

申込み先:東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

*事前の申し込みをお願いします。締め切り11月8日(月)

Email:office@tokyo-workers.jp TEL:03-3207-1941

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.85

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階

TEL:03-3207-1941 FAX:03-3207-1945

E-mail office@tokyo-workers.jp

http://www.tokyo-workers.jp

発行日 2021年11月1日

編集 ワーカーズ・コレクティブ 企画編集・のもの
年間購読料 600円(年4回発行)